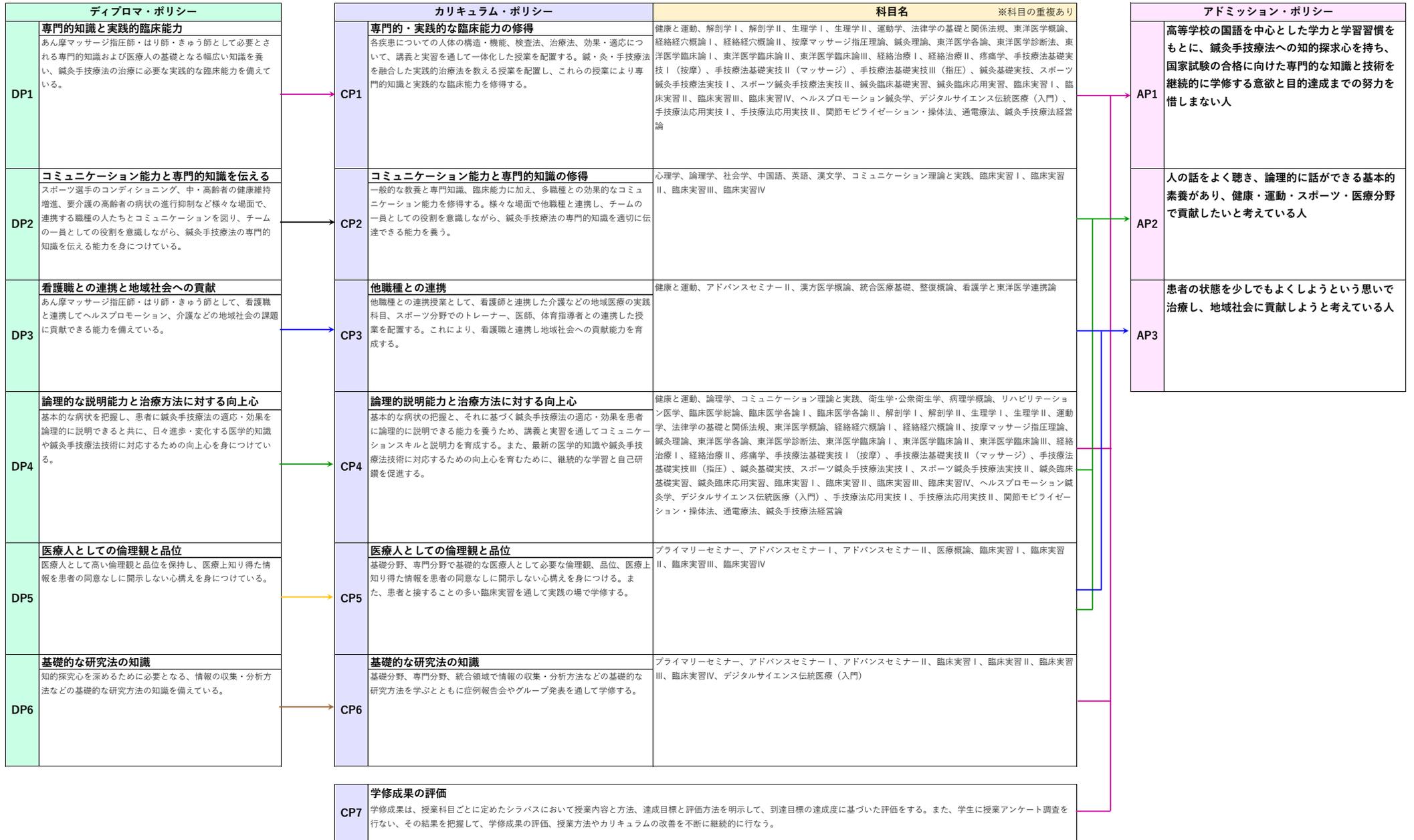


仙台赤門短期大学 鍼灸手技療法学科 3つのポリシーの科目の関連図



授業科目名	臨床実習 I	授業コード	AMT_FS_5810
講義形式	実習	DPコード	1・2・5
単位数	1 単位	時間数	45 時間
履修年次	1 年次(後期)	必修・選択	必修
担当教員	宮本俊和、吉川恵士、岩昌宏、國分壮一、浦山久嗣、武藤永治、渡部正司、糟谷俊彦、川嶋睦子、宮本成生		
授業の概要	臨床実習では、鍼灸手技療法の基礎知識と実技を学ぶ。カリキュラムは、必要な理論知識の習得、治療の見学、治療環境の整備に重点を置く。実践的な学習と臨床現場における業務上の洞察に重点を置き、治療院業務の理解と患者との基本的な交流の練習も含む。		
授業のキーワード	臨床能力、理論的知識、臨床観察		
授業の到達目標	観察力と基本的なコミュニケーションスキルを養う。治療の見学、治療所の運営を理解し、患者との基本的なやり取りを実践で練習する。この実習を通じて、学生たちは実際の治療環境での経験を積み、将来の専門職として必要な能力を養う。		
授業計画	回	内容	
	1	授業の概要	
	2	臨床施術の一連の流れ	
	3	施術所の災害対策と災害時の対応	
	4	臨床実習における感染対策	
	5	医療者としての守秘義務と個人情報	
	6	医療人として必要な倫理観（自律性の尊重・無危害・善幸・公正）と品位（清潔感・言葉遣い・礼儀・立ち振る舞い・教養）	
	7	患者や他職種の人とのコミュニケーション	
	8	インフォームドコンセント	
	9	施術所の環境設備、治療所の運営	
	10	施術所の治療機器の取り扱い	
	11	鍼灸手技療法の見学実習(1) 見学実習：臨床現場で実施されているはり師、きゅう師、あん摩・マッサージ・指圧師の仕事を理解し、医療人として適切な態度で実習に臨み、患者や医療スタッフとのコミュニケーションを図る。	
	12	鍼灸手技療法の見学実習(2)	
	13	鍼灸手技療法の見学実習(3)	
	14	鍼灸手技療法の見学実習(4)	
	15	鍼灸手技療法の見学実習(5)	
	16	鍼灸手技療法の見学実習(6)	
	17	鍼灸手技療法の見学実習(7)	
	18	鍼灸手技療法の見学実習(8)	
	19	鍼灸手技療法の見学実習(9)	
	20	鍼灸手技療法の見学実習(10)	
	21	鍼灸手技療法の見学実習(11)	
	22	鍼灸手技療法の見学実習(12)	
	23	授業のまとめ	
教科書	適時授業用資料を配付		
参考文献・その他資料	特になし		
成績評価方法	実習生が提出する実習日報および授業ごとの教員評価（基本事項や行動目標など5項目から成る実習項目を5段階評価する臨床実習評価表による評価）より総合的に評価する。		
履修の条件	特になし		
備考(学生に望むこと)	積極的に実習に参加してもらいたい。		

授業科目名	臨床実習Ⅱ	授業コード	AMT_FS_5820
講義形式	実習	DPコード	1・5
単位数	1単位	時間数	45時間
履修年次	2年次(前期)	必修・選択	必修
担当教員	宮本俊和、吉川恵士、岩昌宏、國分壮一、浦山久嗣、武藤永治、渡部正司、糟谷俊彦、川嶋睦子、宮本成生		
授業の概要	臨床実習では、鍼灸手技療法の基礎知識と技術を習得し、理論、観察、治療環境の準備、臨床記録の作成補助に重点を置く。授業で学んだ基本的な治療技術や患者との接し方を講師の指導のもとで応用し、患者への直接的なケア、初期評価、簡単な治療計画を立てながら、臨床能力と理論的な理解を深めます。		
授業のキーワード	臨床能力、理論的知識、臨床観察		
授業の到達目標	基礎的な治療技術と患者との接し方を身につける。教員の指導のもと、授業で学んだ基本的な治療技術を応用し、初期評価や簡単な治療計画など、より直接的な患者ケアを行う。		
授業計画	回	内容	
	1	授業の概要	
	2	臨床補助する上での医療人の倫理観と品位	
	3	治療環境の準備・整理	
	4	問題指向型 (POS) カルテの書き方(1) 主観的データ・客観的データ	
	5	問題指向型 (POS) カルテの書き方(2) アセスメント・初期プラン	
	6	基本的な手技療法技術の確認	
	7	手技療法の補助実習(1) 補助実習：手技療法の臨床現場での見学に加えて、予診表の作成、検査、カルテの作成など実習教員のサポートをする。	
	8	手技療法の補助実習(2)	
	9	手技療法の補助実習(3)	
	10	手技療法の補助実習(4)	
	11	手技療法の補助実習(5)	
	12	手技療法の補助実習(6)	
	13	手技療法患者のカルテの作成と監査	
	14	基本的な鍼灸療法技術の確認	
	15	鍼灸療法の補助実習(1) 補助実習：鍼灸療法の臨床現場での見学に加えて、予診表の作成、検査、カルテの作成など実習教員のサポートをする。	
	16	鍼灸療法の補助実習(2)	
	17	鍼灸療法の補助実習(3)	
	18	鍼灸療法の補助実習(4)	
	19	鍼灸療法の補助実習(5)	
	20	鍼灸療法の補助実習(6)	
	21	鍼灸療法の補助実習(7)	
	22	鍼灸療法患者のカルテの作成と監査	
23	まとめ		
教科書	適時授業用資料を配付		
参考文献・その他資料	特になし		
成績評価方法	実習生が提出する実習日報・実習ケースノートおよび授業ごとの教員評価（基本事項や行動目標など5項目からなる実習項目を5段階評価する臨床実習評価表による評価）により総合的に評価する。		
履修の条件	特になし		
備考(学生に望むこと)	積極的に実習に参加してもらいたい。		

授業科目名	臨床実習Ⅲ	授業コード	AMT_FS_5830
講義形式	実習	DPコード	1・5
単位数	1単位	時間数	45時間
履修年次	2年次(後期)	必修・選択	必修
担当教員	宮本俊和、吉川恵士、岩昌宏、國分壮一、浦山久嗣、武藤永治、渡部正司、糟谷俊彦、川嶋睦子、宮本成生		
授業の概要	臨床実習で学生は鍼灸手技療法の知識と技術を学ぶ。プログラムは治療の理論、観察、環境準備に重点を置き、実践を通じて臨床能力と理論知識を深める。臨床判断力と治療計画のスキルを高め、包括的な治療計画の立案や実施、患者の反応に基づく治療計画の調整に携わる。		
授業のキーワード	臨床能力、理論的知識、臨床観察		
授業の到達目標	臨床における判断力と治療計画のスキルを高める。包括的な治療計画の立案、より複雑な治療の実施、患者の反応に応じた治療計画の変更など患者ケアに携わる。		
授業計画	回	内容	
	1	授業の概要	
	2	患者を検査する上での医療人の倫理観と品位	
	3	患者の主観的データと客観的データの取り方	
	4	主観的データと客観的データから得たアセスメント	
	5	初期計画(検査計画・教育計画・治療計画)の立案	
	6	東洋医学的検査法	
	7	現代医学的検査法	
	8	手技療法の補助実習(1) 補助実習：臨床現場での見学に加えて、予診表の作成、検査、カルテの作成、部分マッサージなど実習教員のサポートをする。	
	9	手技療法の補助実習(2)	
	10	手技療法の補助実習(3)	
	11	手技療法の補助実習(4)	
	12	手技療法の補助実習(5)	
	13	手技療法の補助実習(6)	
	14	手技療法の補助実習(7)	
	15	手技療法の報告書作成	
	16	鍼灸療法の補助実習(1) 補助実習：臨床現場での見学に加えて、予診表の作成、検査、カルテの作成、抜鍼など実習教員のサポートをする。	
	17	鍼灸療法の補助実習(2)	
	18	鍼灸療法の補助実習(3)	
	19	鍼灸療法の補助実習(4)	
	20	鍼灸療法の補助実習(5)	
	21	鍼灸療法の補助実習(6)	
	22	鍼灸療法の補助実習(7)	
23	鍼灸療法の症例報告書作成		
教科書	適時授業用資料を配付		
参考文献・その他資料	特になし		
成績評価方法	実習生が提出する実習日報・実習ケースノートおよび授業ごとの教員評価(基本事項や行動目標など5項目からなる実習項目を5段階評価する臨床実習評価表による評価)により総合的に評価する。		
履修の条件	特になし		
備考(学生に望むこと)	積極的に実習に参加してもらいたい。		

授業科目名	臨床実習Ⅳ	授業コード	AMT_FS_5840
講義形式	実習	DPコード	1・2・5
単位数	1単位	時間数	45時間
履修年次	3年次(前期)	必修・選択	必修
担当教員	宮本俊和、吉川恵士、岩昌宏、國分壮一、浦山久嗣、武藤永治、渡部正司、糟谷俊彦、川嶋睦子、宮本成生		
授業の概要	臨床実習では、学生は鍼灸手技療法の基礎と応用を学ぶ。臨床実習は理論習得、施術観察、環境準備に焦点を当て、鍼灸治療の補助を含む。目標は臨床能力と理論知識の向上、高度な治療技術の習得、学際的協力、専門能力の開発にあり、教員の指導下で批判的思考と専門活動を臨床現場で実践する。		
授業のキーワード	臨床能力、理論的知識、臨床観察		
授業の到達目標	高度な治療技術、学際的な協力、専門的な能力開発に重点を置く。教員指導のもとで鍼灸治療を行い、患者ケアにおける批判的思考を実証し、臨床現場における専門的な活動を身に着ける。		
授業計画	回	内容	
	1	授業の概要	
	2	患者を施術する上での医療人の倫理観と品位	
	3	手技療法の技術確認	
	4	鍼灸療法の技術確認	
	5	鍼灸手技療法の安全性(気胸・折鍼・火傷・骨折など)	
	6	手技療法の介助実習(1) 介助実習：見学実習・補助実習に加えて、学生の習熟度に合わせて、実習教員の指導の元に、手技療法の治療に関わる部分をサポートする。	
	7	手技療法の介助実習(2)	
	8	手技療法の介助実習(3)	
	9	手技療法の介助実習(4)	
	10	手技療法の介助実習(5)	
	11	手技療法の介助実習(6)	
	12	スポーツ選手の手技療法の介助実習(1)	
	13	スポーツ選手の手技療法の介助実習(2)	
	14	鍼灸療法の介助実習(1) 介助実習：見学実習・補助実習に加えて、学生の習熟度に合わせて、実習教員の指導の元に、鍼灸療法の治療に関わる部分をサポートする。	
	15	鍼灸療法の介助実習(2)	
	16	鍼灸療法の介助実習(3)	
	17	鍼灸療法の介助実習(4)	
	18	鍼灸療法の介助実習(5)	
	19	鍼灸療法の介助実習(6)	
	20	スポーツ選手の鍼灸療法の介助実習(1)	
	21	スポーツ選手の鍼灸療法の介助実習(2)	
	22	症例報告会による討議	
23	まとめ		
教科書	適時授業用資料を配付		
参考文献・その他資料	特になし		
成績評価方法	実習生が提出する実習日報・実習ケースノートおよび授業ごとの教員評価(基本事項や行動目標など5項目からなる実習項目を5段階評価する臨床実習評価表による評価)により総合的に評価する。		
履修の条件	特になし		
備考(学生に望むこと)	積極的に実習に参加してもらいたい。		

臨床実習評価表

仙台赤門短期大学 鍼灸手技療法学科 _____年

学 生 名 _____ 指導者氏名 _____

実 習 日 _____年 _____月 _____日

評価視点	指導者の評価
1) 衣服、身だしなみ、衛生面に配慮ができていたか。	1・2・3・4・5
2) 指導者、スタッフ、受療者、付添人に対して、医療人としてふさわしい対応（礼儀、言葉遣い、丁寧な説明、誠実さ）ができたか。	1・2・3・4・5
3) 実習内容を理解し、実施できたか。	1・2・3・4・5
4) 指導者の指示、忠告、示唆に対して適切に対応したか。	1・2・3・4・5
5) 知的探究心を持って実習に臨み、学びを深めたか。	1・2・3・4・5

【指導者の評価】

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 1) 助言・指導を必要としない | 4) かなりの助言・指導を必要とする。 |
| 2) ほとんど助言・指導を必要としない。 | 5) かなりの助言指導をしてもできない。 |
| 3) ある程度の助言・指導を必要とする。 | |

特記事項	
------	--